

各水試発トピックス

アカマンボウ目の珍魚2種：テングノタチとサケガシラ

アカマンボウ目は主に沖合から外洋に分布する魚類で、希にしか見つからない種や外見が奇妙な種が多く、有名なリュウグウノツカイもこの仲間です。函館市漁協から函館水試にこの仲間の持ち込みが2件ありましたので報告します。併せて、ご協力いただいた方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

1. テングノタチ *Eumecichthys fiskii*

(アカナマダ科テングノタチ属)

2008年12月8日、「イカ釣りの針にリュウグウノツカイがかかった」との連絡がありました。調べたところ、リュウグウノツカイではなく、北海道からの報告は2例目というさらに珍しい「テングノタチ」でした。額の部分が角のように大きく突出しているのが特徴で、魚としては珍しい墨汁嚢を肛門の近くに持ってあり、今回の個体でもイカの墨のような墨汁が肛門から出ているのが確認できました。全長は92.2cm、体重は133gでした。

持ち込まれた個体は、測定後、北海道大学大学院水産科学研究院で保存されることになりました(登録番号 HUMZ 202404)。釣りで捕れたため、特に鱗の損傷が少なく、生時の外観がよく分かる貴重な標本となったとのことです。

2. サケガシラ *Trachipterus ishikawae*

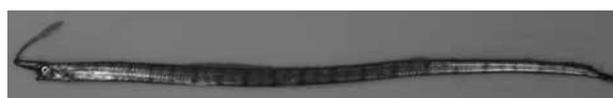
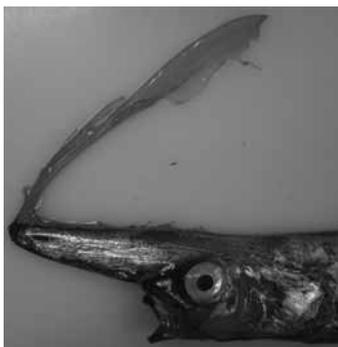
(フリソデウオ科サケガシラ属)

2009年5月25日、「刺し網にサケガシラがかかった」との連絡がありました。捕れたのは雌で、全長156.3cmというかなり大きな個体でした。大きな眼と、下に向かって長く突き出すことのできる口吻(写真参照)が特徴的です。

この種は北海道でも時々捕れ、「食用になるのか」という問い合わせも多いのですが、以前行った試食では、肉に味らしい味がない上に、加熱すると肉質がぶよぶよのゼラチン状に変化してしまい、どう料理してもまずい魚でした。少なくとも物好きで食べる以上のものではないようです。

本種は沖合の深い海に生息し、「サケの群れを率いてやって来る」という言い伝えがあるためこの名が付いたとされますが、どの程度の科学的根拠がある話なのかは分かりません。なお、同じ目に含まれるリュウグウノツカイも「ニシンの群れを率いてやって来る」という言い伝えを持ち、英語では正式名「oarfish(オール魚)」のほか「king of the herring(ニシンの王)」という別名を持っています。

(澤村正幸 函館水試調査研究部)



テングノタチの頭部と全体像

サケガシラの全体像と頭部



各水試発トピックス

タラバガニの人工繁殖試験～初年度の試み～

本誌第77号で紹介しましたタラバガニ種苗生産技術確立事業ですが、天然抱卵雌を用いた種苗生産技術の開発（稚ガニまで育成）と並んで、「人工繁殖試験」が大きな柱の一つになっています。これは今後、天然抱卵雌を定期的・計画的に入手することが難しくなるかもしれないことに備え、陸上水槽で人為的に交尾・産卵させようとするものです。甲殻類では、雌の脱皮直後にしか交尾できないため、雄が雌をガードする習性があります（これを「交尾前ガード」と呼びます）。実際の飼育では、幼生の孵出（孵化）中、幼生を回収するため雌雄別々にしていましたが、雌の脱皮前に雄と雌を一緒にする必要があります。

2008年12月下旬に始まった幼生の孵出は、2009年1月上旬から順次、終了しました（雌1尾が抱えている卵が全て孵化するのに2週間以上かかりました）。脱皮がいつ起きるのか、ペアリングをいつ行えばよいのか、全くわからないため、とりあえず幼生孵出の終わった雌を雄のいる水槽に移してみました。すると、雄は雌に猛然とアタックし、雌をひっくり返して銜んでしまいました（写真1）。幼生の孵出前、雌雄を同じ水槽で飼育している際には見られない行動でしたので、「ずいぶん乱暴な」と思いながら観察していたのですが、数時間後には離れてしまいました。

その後アクションが見られたのは1月下旬。向かい合う格好で雄が雌の鉗脚を銜む交尾前ガード行動が観察されました（写真2）。しばしば雄同士のケンカも観察され、雄が雌を持ち上げて移動したり、ガード雄が入れ替わることもありました。

また、このガード行動、すぐに離してしまう場合もありましたが、時には10日以上も続き、交尾相手を確実に確保するためとはいえ、このようにがちりと銜んで（銜まれて）いるので、摂餌もままなりません。そのためか、雌雄共、ガード行動（脱皮）前後に死亡する個体が多くなりました。

結局、5月上旬までに数組のペアが形成されたのですが、脱皮 - 交尾 - 産卵に成功した雌は2尾だけでした。タラバガニの繁殖行動は、雄にとっても雌にとっても、リスクの大きなイベントのようです。

（田村 亮一 栽培水試生産技術部）



写真1 雌（右）にアタックする雄タラバガニ

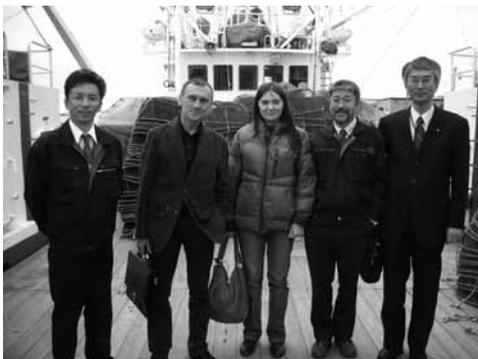


写真2 タラバガニの交尾前ガード行動

各水試発トピックス

第38回日口研究交流開催される

道水試とサハリン漁業海洋学研究所(サフニロ)との第38回日口研究交流が、平成21年6月17、18日に中央水試で開催されました。サフニロ交流団のサマトフ第1副所長とラトコフスカヤ化学分析研究室長は、6月16日にコルサコフからフェリーで稚内市に到着後、稚内日口経済交流協会のあつ野典子さんの通訳で、稚内水試と同水試所属の調査船北洋丸を視察されたあと、余市町に移動されました。翌17日は中央水試で研究発表会が行われ、午前中は道水試から石狩湾系ニシンの生理・生態に関する発表と北海道、サハリン、陸奥湾のホタテガイの遺伝子解析に関する発表が行われました。午後からは、日口研究交流の第4次計画として行われている「コンブ漁場の環境に関する日口比較調査」について研究発表が行われました。サフニロによる調査についてはサマトフ副所長から、道水試による調査については稚内水試からそれぞれ発表がありました。また、これらに関連する研究として、ラトコフスカヤ室長からサハリン南西部沿岸の栄養塩類の分析結果の発表と道水試からホソメコンブの初期成長と環境要因との関係に関する発表が行われました。



北洋丸船上で稚内水試職員とのスナップ写真



研究発表会で挨拶するサマトフ副所長



道水産林務部の藤島水産局長(中央)との意見交換

研究発表後の意見交換では、比較調査が順調に進行していることが確認され、栄養塩の分析手法の統一などについても活発な論議が行われました。

6月18日、研究交流終了後、小樽市水族館を視察されたサフニロ交流団は、翌19日札幌市に移動して北海道水産林務部と北海道水産会を表敬訪問されました。札幌では北海道神宮や大倉山シャンツェ、サッポロビール園などを見学され、20日に新千歳空港から空路帰国されました。期間中はお天気に恵まれ、絶好の研究交流日和となり、屋外で行われた送別焼き肉パーティーも喜んでいただき、水試職員との懇親も深まりました。

(夏目雅史 中央水試企画情報室)

各水試験トピックス

「2009サイエンス・パーク」の開催

平成21年7月29日(水)10時から、札幌市内にあるサッポロファクトリーにおいて、「2009サイエンス・パーク」が開催されました。

これは、北海道と独立行政法人科学技術振興機構が共催し、一般道民の方々に科学技術を身近に体験してもらい、科学に親しんでもらうことを目的に毎年夏休み期間中に実施されているイベントです。

このイベントには、中央水試をはじめ16の道立試験研究機関に加えて、北海道電力やサッポロビールなどの民間企業も加えて開催されたものです。

当水試からは、「手作りカマボコに挑戦」と銘打った体験コーナーを催し、参加された約30名の小学生達は興味津々に手作りカマボコを試作し、出来たて熱々のカマボコを父兄の方々と一緒に試食しました。



体験コーナーに参加した小学生



興味津々で説明を聞く小学生



手作りカマボコを試作する小学生



熱々のカマボコを試食する小学生

(古明地恵一 中央水試企画情報室)

各水試験トピックス

「はまます・ふうどフォーラム2009」の開催

平成21年8月2日(日)10時から、石狩市の浜益コミュニティセンターにおいて、「はまます・ふうどフォーラム2009」が開催されました。

このフォーラムは、地域の特徴を活かした豊かで活力あるまちづくりを進める取り組みとして、都市住民と浜益住民との地域間交流による浜益区の活性化を図ることを目的に、地元住民を中心として組織された「はまます・ふうどフォーラム実行委員会」が開催したものです。

このフォーラムでは、浜益の歴史と食を支えた「にしん」をテーマに行うとのことで、中央水試に講演とパネルディスカッションを行う職員の派遣依頼があり、資源管理部の山口幹人資源予測科長を派遣しました。午後からの講演では、「にしん今昔～北海道サハリン系鯿から石狩湾系ニシンへ」と題して講演を行い、山口科長の丁寧で解りやすい説明に、講演の最後には盛大な拍手が会場全体に響き渡りました。

また引き続き行われたパネルディスカッションでは、浜益出身の竹田正直北海道大学名誉教授のコーディネートで、4人のパネラーによるディスカッションを行い、「ニシン栄枯盛衰～今後の可能性を探る～」をテーマに白熱した議論が繰り広げられました。

そしてこのフォーラムの最後には、会場全員で「ソーラン節」の大合唱が行われ、華やかし時代の浜益が思い起こされました。



フォーラムの状況



講演の状況



パネルディスカッションの状況

(古明地恵一 中央水試企画情報室)

各水試発トピックス

「中央水産試験場一般公開」の開催

平成21年8月6日(木)10時から、中央水試の一般公開を開催しました。

一般公開は毎年1回、夏休み期間のこの時期に開催しており、今年は天候に恵まれたこともあって、小学生を中心に町内外から大勢の方々が来場しました。

今年実施した主な内容は、水試で行っている試験研究についてのパネル展示や紹介、体験コーナーでは、恒例の「地びき網」のほか、魚に親しむことを目的とした「タッチプール」や「カニ釣り」なども行い、チビッコ達の歓声が響き渡っていました。



みんなで引っ張れ～



プールは楽しい?



カニは釣れたかな?



海藻で何が書けるかな?

(古明地恵一 中央水試企画情報室)